

# 地域貢献につながる 助産師の活躍

お産停止のピンチを  
チャンスに変える!



## 広域紋別病院

副院長／看護部長 石川ひろみ



1982年北海道立紋別高等看護学院卒業後、総合病院勤務を経て2001年看護師長に就任。2006年より総看護師長として道内を転勤し2009年看護職副院長職に就任。2012年認定看護管理者資格を取得。2013年より現職。2016年にはメッセンジャーナースSA認定取得。北海道看護協会地区支部長、副支部長などを兼任。

# 北海道西紋圏域の お産の現状と周産期の取り組み

我が国は2025年問題を目前に、高齢者が住み慣れた地域で最期まで暮らし続けられるよう、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいる。総人口が減少し続ける中、後期高齢者人口割合は右肩上がりに増加し、来るべき150万人超の多死社会を見据え、「終末期」や「看取り」が注目されている。しかし、人間の一生は始まりがあって終わりがある。地域包括ケアシステムは人の生き方を支えるネットワークとも言え、その構築は人生の最終段階に目を奪われるばかりでなく、支える側の整備も並行して進める必要がある。出産休止という事態から周産期を見つめ直した時、地域における周産期医療はすでに社会の流れを踏まえた変革を問われていると気づいた。本連載では、新たな視点で取り組んだ企画を紹介する。

## ●病院の概要

広域紋別病院は、北海道道東地区のオホーツク海に面し、紋別市を中心に1市6町1村から成る遠紋地域に位置している（図1）。許可病床数150床の急性期病院で、2011年に北海道から移管され、西紋地域広域連合企業

団で運営されている。診療圏対象人口約3.5万人の西紋地域の地域センター病院として、地域医療の中核を担っている。二次救急医療や人工透析、精神科診療などの不採算医療をはじめ、内科系、外科系の一般診療を中心とした医療を提供している。

産科診療については、道立病院時代の1948年から当地域において唯一の施設として年間200件程度の分娩を取り扱ってきたが、2006年以降は医師1人、常勤助産師3～4人体制を維持するのが精一杯という状態である。そのような中でも経産婦やローリスクの分娩に限定しながら年30件程度の分娩対

## ●図1 遠紋地域

